

<特集補遺「情報標示の諸要素」>

ポーランド語における情報標示の諸要素¹ Markers of informational structure in Polish

森田 耕司
Koji Morita

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿は、特集「情報標示の諸要素」(『語学研究所論集』第22号, 2017, 東京外国語大学)に寄与するものである。本稿の目的は、25個のアンケート項目に対するポーランド語のデータを提供することである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘markers of informational structure’ (*Journal of the Institute of Language Research* 22, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer Polish data for the question of 25 phrases.

キーワード：主語卓越型言語, 取り立て表現, 不定表現, 情報のなわ張り

Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

『語学研究所論集』第22号特集「情報標示の諸要素」に関する風間(2017)のまえがきに提示されているアンケート項目及びその意図や説明に基づき、ポーランド語のデータを提示する。必要に応じて、解説も加える。

1. 主題卓越型類型論の軸項について

[1]と[2]は、ポーランド語では日本語の二重主語構文に相当する表現がどうなるかという点と、先行文の主題として提示されている名詞を統語的軸項として後続文を構成できるか否か、を見る例文である。

[1] この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。

W	tej	ziemi	dobrze	rosną	warzywa.	Dlatego	będą	się
in	this-LOC	land-LOC	well	grow-3.PL	vegetables.NOM	therefore	be-3.PL.FU	REF
sprzedawać	po	dobrej	cenie.					
sell-IMP.F.INF	at	good-LOC	price-LOC					



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed/ja>

¹ ポーランド語のデータ作成に際してご協力いただいた本学特任講師カロリナ・レシニェフスカ先生に心よりお礼を申し上げます。

[2] 私は頭が痛い。だから今日は休む。

Boli	mnie	głowa.	Dlatego	dziś	odpocznę.
hurt-3.SG.IMPF.PRES	I-ACC	head-NOM	therefore	today	rest-1.SG.PF.PRES

[1]の「この土地は野菜がよく育つ」や[2]の「私は頭が痛い」のような日本語の二重主語構文に対応する（二重の主格主語を取るような）構文はポーランド語には存在しない。主題にあたる[1]の「この土地は」は前置詞句で、[2]の「私は」は対格で表現される。主語卓越型に位置づけられるポーランド語では、先行文の主題を（それが主格主語でない限り）統語的軸項として後続文を構成することはできない。先行文の主題は、第2文で改めて主格主語として表示される。

2. とりたて表現について

[3] あの人だけ、時間通りに来た。【限定】

Tylko	ta	osoba	przyszła	punktualnie.
only	that	person	come-3.SG.F.PF.PAST	punctually

[4] これはここでしか買えない。【限定・否定との共起】

To	można	kupić	tylko	tutaj.
this	can	buy-PF.INF	only	here

[5] その家にいたのは子供ばかりだった。【限定・多数】

W	tym	domu	były	tylko i wyłącznie	dzieci.
in	that-LOC	house-LOC	be-3.PL.NMP.PAST	only	children

[3]の「...だけ～」及び[4]の「...しか～ない」は、ポーランド語では「...だけ～（肯定）」のように表現する。[5]の「ばかり」は、ポーランド語の例文のように上述の「だけ」にあたる *tylko* に「もっぱら／ただ...ばかり」にあたる *wyłącznie* を組み合わせた *tylko i wyłącznie* という表現を用いることにより「限定・多数」のニュアンスを出すことが可能となる。

[6] 次回こそ、失敗しないようにしよう。【限定・強調】

Następnym	razem	postarajmy	się	nie	popęlnić	już
next-INST	time-INST	try-1.PL.PF.IMP	REF	NEG	make-PF.INF	already

błędów.
mistake-PL.GEN

[6]では「次回」に掛かる「こそ」に相当する語句は用いられず、「次回はもう～（否定）」のように表現するのが一般的である。つまり、ポーランド語の例文のように「次回はもう失敗しない（／間違いをおかさない）ようにしよう」とするのが自然である。

[7] 疲れたね、お茶でも飲もう。【反限定・例示】

Zmęczyliśmy	się,	napijmy	się	herbaty	albo	czegoś
get tired-1.PL.MP.PF.PAST	REF	drink-1.PL.PF.IMP	REF	tea-GEN	or	something-GEN

innego.
else-GEN

[7]では「お茶でも」は、ポーランド語では「お茶あるいは何か別の物を」として表現するのが自然である。

[8] 水さえあれば、数日間は大丈夫だ。【極端・意外】

Najważniejsze,	że	jest	woda,	przez	kilka	dni	wszystko
most important	that	be-3.SG.PRES	water	through	a few	days	all
będzie	w	porządku.					
be-3.SG.FUT	in	order-LOC					

[8]の「…さえあれば」は、ポーランド語では「…があることが最も重要である」（つまり、他はそれほど重要ではない）という表現が自然であると思われるので、この例文を採用した。日本語の「極端」の意味を表すとりたて表現は、ポーランド語ではあまり使われない。

[9] 小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。【極端・意外】

Nawet	małe	dzieci	zostały	zmuszone	do	pomocy
even	small	children	become-3.PL.NMP.PF.PAST	forced-3.PL.NMP	to	help
w	tej	pracy.				
in	that-LOC	work-LOC				

[9]の日本語の「極端」の意味を示すとりたて表現「まで」は、ポーランド語の副詞 *nawet* を添えることにより、小さい子供にまで影響が及ぶことを表現することが可能である。この場合、ポーランド語でもとりたて表現が言語的に明示されている。

以上のように、日本語とポーランド語ではとりたて表現の使用範囲が異なる。どのようなときにとりたて表現が使われ、どのようなときにどんなとりたて表現が使われないかについて、さらに詳しく調査する必要がある。

[10] 私はお金なんか欲しくない。【反極端・低評価】

Nie	chcę	pieniędzy.
NEG	want-1.PL.PRES	money-GEN

ポーランド語には低評価の意味を示す「なんか」に相応する語がないため、ここでは単に「お金は欲しくない」という表現になる。あるいは「お金は必要としていない」という意味で *Nie potrzebuję pieniędzy* でもよい。ニュアンスは変わるが「お金のことを言っているのではない（お金のことはどうでもいい）」という意味で *Nie chodzi o pieniądze* という表現を低評価の意味を示す表現として使うことも可能であろう。いずれにしても、ポーランド語の場合、イントネーションやコンテキストに任せる部分が大きくなることは間違いない。

[11] 自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。【反極端・最低限】

Przynajmniej	swój	pokój	posprzątaj	sam.
at least	own	room	clean up-PF.PRES.IMP	by yourself

[12] 私にもちょうだい. 【類似・類似】

Ja	też	poproszę.		
I	also	ask-1.SG.PF.PRES		

[13] お父さんもう帰って来たね. お母さんは? 【反類似・対比 (疑問)】

Tata	już	wrócił.	A	mama?
dad	already	come back-3.SG.M.PF.PAST	while	mom

[12]の「…も」には *też* が対応するが、「ちょうだい」のような日本語の「やりもらい (授受) 表現」の場合、ポーランド語では「私もお願いします (ください)」という主格主語による能動的表現が自然である。[13]の対比の「…は」には、ポーランド語では対比の接続詞 *a* を用いて表現するのが一般的である。

3. 不定表現について

ポーランド語の不定代名詞は「誰」「何」のような疑問詞と近い関係を持っているタイプに属する。ポーランド語では *ktoś* 「誰か」及び *coś* 「何か」は *kto* 「誰」及び *co* 「何」から不定の接尾辞 *-ś* により派生される。

[14] 誰か (が) 電話してきたよ. 【特定既知 (specific known)】

Ktoś	dzwonił.
somebody	call-3.SG.M.IMPF.PAST

[15] 誰かに聞いてみよう. 【非現実不特定 (irrealis non-specific)】

Zapytajmy	kogoś.
ask-1.PL.PF.IMP	somebody-ACC

[16] 私のいない間に誰か来た? 【疑問 (question)】

Ktoś	przyszedł,	kiedy	mnie	nie	było?
somebody-NOM	come-3.SG.M.PF.PAST	when	I-GEN	NEG	be-3.SG.N.PAST

[17] 誰か来たら, 私に教えてください. 【条件節内 (conditional)】

Daj	mi	znać,	jak	ktoś	przyjdzie.
give-PF.IMP	I-DAT	know	if	somebody-NOM	come-3.SG.PF.PRES

[14]から[17]までは, 不定代名詞及び疑問詞 *ktoś* が用いられる。[15]は不定代名詞 *ktoś* の対格形であり, [16]は疑問詞として用いられている。

[18] 今日は誰も来るとは思わない. / 今日は誰も来ないと思う. 【間接 (全部) 否定 (indirect negation)】

Nie	sądzę,	że	dziś	ktoś	przyjdzie.
NEG	think-1.SG.IMPF.PRES	that	today	somebody-NOM	come-3.SG.PF.PRES

Myszę,	że	dziś	nikt	nie	przyjdzie.
think-1.SG.IMPF.PRES	that	today	nobody-NOM	NEG	come-3.SG.PF.PRES

ポーランド語では後者, つまり「[誰も来ない]と思う」の方がより自然である。どのような文脈を想定するかによって異なる意見が出てくる可能性はあり得る。ポーランド語では「誰も～ない」「何も～ない」といった全部否定の場合には, 疑問詞から派生した不定代名詞 *nikt* 及び *nic* が使われる。したがって, ポーランド語では全部否定の否定要素は動詞の側だけでなく, 名詞の側にも現れる。

[19] そこには今誰もいないよ。【直接(全部)否定(direct negation)】

Tam	w	tej	chwili	nikogo	nie	ma.
there	in	this	moment	nobody-GEN	NEG	have-3.SG.PRES

[20] (それは)誰でもできる。【自由選択(free-choice)】

(To)	każdy	może	zrobić.
(that)	everyone	can-3.SG.PRES	do-PF.INF

[20]の「誰でも」はポーランド語では, 不定代名詞 *każdy* 「いずれも(皆)」を用いるのが自然である。また不定代名詞 *ktokolwiek* 「誰だろうと」を使うことも可能である。

[21] そんなこと(は), みんな知っているんじゃないか!? 【自由選択を示す「みんな」】

O	takich	rzeczach	każdy	wie!?
about	those	things	everyone	know-3.SG.IMPF.PRES

[21]の「みんな」が特定の集団の構成員全員ではなく, 自由選択を示すのであれば, 不定代名詞 *każdy* 「いずれも(皆)」を用いる方が自然である。「みんな」が特定の集団の構成員全員を示すのであれば, *każdy wie* の代わりに *wszyscy wiedzą* を用いることも可能である。

[22] そんなもの, 誰が買うんだよ!? 誰も買うわけじゃないじゃないか! 【反語】

Kto	by	kupił	coś	takiego?	Nikt	tego	nie
who	would	buy-3.SG.M.PF.PAST	something-ACC	such-GEN	nobody	that	not
kupi!							
buy-3.SG.PF.PRES							

[22]の反語は, ポーランド語の場合, 話者の意図していることをわざと疑問文の仮定法で述べるのが一般的である。「誰も～ない」といった全部否定の場合には, 疑問詞 *kto* から派生した不定代名詞 *nikt* が使われる。

4. なわ張り理論について

[23] 君は英語がうまいね。【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

Dobrze	mówisz	po	angielsku.
well	speak-2.SG.IMPF.PRES	in	English

[23]の場合、日本語では終助詞「ね」が用いられるが、ポーランド語では動詞「話す」を聞き手自身の能力に関するという点で2人称形にすることにより、この情報が聞き手にも帰属していることを示すことが可能であるため、神尾（1990）が提示しているような日本語の〈ね形〉に相当するような他の表現を添加する必要はない。

[24] 君は退屈そうだね。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

Wygląda,	że	się	nudzisz.
seem-3.SG.IMPF.PRES	that	REF	bore-2.SG.IMPF.PRES

[24]は「君が退屈している」という情報が、「話し手のなわ張り外」にあり、かつ「聞き手のなわ張り内」にある、つまり当該の情報が聞き手にのみ帰属するという想定 of 例文である。情報が聞き手のなわ張り内のみ属する場合、ポーランド語では英語の look や seem に相当する不確定性を意味する非断定的な動詞 wyglądać 「…のように／…そうに見える」の3人称単数現在形を用いることによって、話し手のなわ張り外であることを示すのが一般的である。

[25] 明日も寒いらしいよ。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

Podobno	jutro	też	będzie	zimno.
apparently	tomorrow	also	be-3.SG.FUT	cold

[25]は「明日は寒い」という情報が、「話し手のなわ張り外」にあり、かつ「聞き手のなわ張り外」にある、つまり当該の情報が話し手にも聞き手にも帰属しないという想定 of 例文である。ポーランド語では、「～という話・うわさだ」を意味する助詞 podobno を用いる表現がある。

略語

ACC=対格, DAT=与格, F=女性, FUT=未来, GEN=生格, IMP=命令形, IMPF=不完了体, INF=不定形, INST=造格, LOC=前置格, M=男性, MP=男性人間形, N=中性, NEG=否定, NMP=非男性人間形, NOM=主格, PAST=過去, PL=複数, PF=完了体, PRES=現在, REF=再帰代名詞, SG=単数, 1=1人称, 2=2人称, 3=3人称

参考文献

風間伸次郎（2017）「特集 情報構造の諸要素 まえがき」東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第22号, pp.22-45.
 神尾昭雄（1990）『情報のなわ張り理論』東京：大修館書店。

執筆者連絡先：morita@tufs.ac.jp

原稿受理：2019年12月25日